学校番号	３２０

令和３年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書Ⅰ　（教育図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びます。
・楷書と行書の書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分の想いに適った文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：書への関心・意欲・態度	b：書表現の構想と工夫	c：創造的な書表現の技能	d：鑑賞の能力
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、積極的に表現できる態度を育む。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し活用できるよう、様々な表現技術の習得を目指す。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを書の表現意図を、創造的に鑑賞する態度を育む。
評価方法	作品 レポート	作品 レポート	作品	作品 鑑賞レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	書写と書道	・国語科書写と芸術科書道の関連と差異 ・楷書の基本用筆	○		○		a:書写と書道の類似点・相違点について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。 b:国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫している。 c:姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 d:書道の類似点・相違点について理解し、さまざまな書のよさを味わっている。	・観察 ・提出作品
一学期	楷書の学習	・孔子廟堂碑の臨書 ・九成宮醴泉銘の臨書		○		○	a:古典に関心を持ち、その知識を得ようとしている。 b:古典をよく観察し、特徴を意識しながら書いている。 c:古典の書風を捉えて、的確に表現することができる。 d:用筆や字形と、書風が密接に関係していることが理解できる	・観察 ・提出作品
二学期	行書の学習	・行書の基本用筆 ・蘭亭序の臨書			○	○	a:古典に関心を持ち、その知識を得ようとしている。 b:古典をよく観察し、特徴を意識しながら書いている。 c:古典の書風を捉えて、的確に表現することができる。 d:用筆や字形と、書風が密接に関係していることが理解できる	・観察 ・提出作品
二学期	漢字仮名交じりの書の学習	・線質による表現 ・構成による表現	○		○		a:漢字仮名交じりの書の創作の意義について理解している。 b:表現を構想し、それを表現するための工夫を考えている。 c:表現や工夫を意識して表現することができる。 d:漢字仮名交じりの書では表現する言葉が大事であることを理解している。	・観察 ・提出作品

三学期	仮名の書の学習	・仮名の基本用筆 ・高野切第三種の臨書		○	○		a:仮名の書に興味・関心を示している。 b:仮名の基本用筆の特徴について考えている。 c:仮名の基本用筆を身につけ、リズムをつかんで表現することができる。 d:仮名の書の表現を理解している。	・観察 ・提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。